1000

巻/頭/言

三菱電機技報1000号記念特集発行にあたって

―グローバル環境先進企業を目指して―

三菱電機株式会社　執行役社長　柵山正樹

「三菱電機技報」は，この９月号をもって通巻1000号を迎えることができました。これもひとえに御愛読者各位の御支援と，出版を支えてきた関係者の努力の賜物と感謝申し上げます。

大正10年の当社設立から４年後の大正14年３月に「三菱電機」という名称で創刊されました。第２次世界大戦中，残念ながら一時発行を中断せざるを得ませんでしたが，戦後いち早く再刊を果たし，昭和37年８月に，現在の「三菱電機技報」と改め，今般1000号まで積み上げることができました。

「三菱電機技報」は，当社の優れた技術・製品，あるいは技術開発活動を広く社外に公表し，その周知を図ることによって，当社の社会的評価の向上，ひいては当社製品の販売促進に寄与し，さらには社会への技術貢献を図ることを目的として発行しております。

各巻各号にはその時代時代における輝かしい成果が記述されていますが，その陰には当社先輩諸氏の並々ならぬ努力があったことを忘れてはなりません。特に，当社創立の頃は工業化推進の草分けの時代であり，海外の近代的な技術や手法を意欲的に吸収し，電機産業の発展に尽くしてきたことが誌面の中からも伺い知ることができます。また，厳しい経営環境の中(昭和恐慌，戦後復興期，高度成長期のキャッチアップの時代，オイルショック・バブル崩壊・IT不況・リーマンショック等)，築き上げられてきたその技術力は今日の電機業界の発展を導き，その工業力を世界に冠たるものにしたひとつの基盤になったものと確信しております。

当社は，現在，重電システム・産業メカトロニクス・情報通信システム・電子デバイス・家庭電器の５つのセグメントをベースに，「強い事業をより強く，新たな強い事業の継続的創出，強い事業を核としたソリューション事業の強化」によって「質の良い」成長の実現を目指しております。豊かな社会構築に貢献する“グローバル環境先進企業”を志向し，産業界の発展に貢献していくことこそ総合電機メーカーとしての当社の責務であると認識しております。

ソリューション事業の強化，グローバルな事業推進には，新たな事業領域の拡大や一層のグローバル展開が必要になります。これらを実現するために，社内事業本部間の連携の強化はもとより，社外とのオープン＆グローバルイノベーションが必要となります。三菱電機技報がその役割の一端を担えれば幸いです。

今回，通巻1000号を迎えるにあたり，この伝統ある「三菱電機技報」を永続的に刊行し，当社グループのコーポレートステートメント「Changes for the Better」を実践し，「変革に挑戦し続け，次の地平を拓く」社風をしっかりと貫くことを肝に銘じてまいります。また，本誌の編集をなお一層充実させ，御愛読者各位の御期待に応えるよう努力することを決意している次第であります。

本号では招待論文として，早稲田大学の小松原明哲教授に，人の暮らしを高める製品をつくるための方法と，技術としての人間生活工学のアプローチについて執筆いただきました。また，当社の５つのセグメントを構成する主要機種群について，事業環境の変遷・技術の推移・今後の展開について，さらに事業戦略や研究開発戦略と連携している知財活動の変遷と将来展望についても掲載しています。すべてのビジネスユニットについて触れることはできませんでしたが，それらについては既刊の特集号を参考いただければ幸甚です。

2020年には，夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。この2020年度は，当社の創業から100年目にあたり，翌2021年２月１日に創業100周年を迎える「将来の一つの節目」として，当社にとって大きな意味を持つ年度となります。「2020年度の当社創立100周年に向けて企業価値を高める」ことを目標に三菱電機技報の質的向上に邁進してまいりますので，今後とも御支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。